

横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
十日市場のぞみ保育園

平成 29 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	7
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	11
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	12
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	13
評価領域Ⅵ 経営管理.....	14
利用者家族アンケート分析.....	15
利用者本人調査.....	19
事業者コメント.....	22

◆ 実施概要 ◆

事業所名	十日市場のぞみ保育園	
報告書作成日	平成29年1月26日	(評価に要した期間5カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

*評価方法

1. 自己評価	【実施期間：平成28年9月5日～11月7日】 ・職員会議等で主旨を説明後、全職員が自己評価をおこなった。 ・グループを作り、適宜園長と主任が参加して話し合いをおこない、一つにまとめた。	
2. 利用者家族 アンケート調査	【実施期間：平成28年10月17日～10月31日】 配 付：全園児の保護者（25家族）に対して、園から手渡しした。 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。	
3. 訪問実地調査	【実施日：平成28年12月26日、12月27日】 ■第1日目 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長・主任） ■第2日目 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午 後：職員ヒアリング調査 （主任・保育士3名・非常勤保育士1名・調理職員1名） 事業者面接調査（園長、主任）	
4. 利用者本人調査	【実施日：平成28年12月26日、12月27日】 ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。 ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。	

◆ 評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

十日市場のぞみ保育園は、ＪＲ横浜線「十日市場」駅から徒歩約２分、環状４号線沿いにあります。大通りから一步入ると緑が多い住宅地となっていて、田んぼも広がっています。平成１８年（２００６年）４月、テンプスタッフ・ウィッシュ株式会社により開設されました。

園は４階建てビルの１階を使用し、保育室、厨房、事務室などから成り、保育室は、ワンフロアを背の低い棚で３つの区画に仕切り、０歳児室、１、２歳児室、幼児室としています。幼児は、３、４、５歳異年齢の１クラス編成です。保育室の外側にテラスがあり、園庭につながっています。

定員は３６名（産休明け～５歳児）、開園時間は、平日７時００分～２０時００分、土曜日７時００分～１６時００分です。

保育理念を、“自立・自律を促進し、子どもと大人の関わり合いの中で育ちあっていく「響育」を心がけます。”とし、保育方針を“生きる力の基礎を育てる。違いを認め合える気持ちを育てる。”としています。

１．高く評価できる点

●子どもたちは、一人一人の気持ちや生活リズムを尊重され、園生活を楽しく過ごしています

朝の時間、子どもたちは、粘土・ブロック・ミニカー・ままごとセットなどでの遊びに熱中しています。ひとりで好きなことに熱中したり、友達と一緒に遊んだりさまざまです。「お医者さんごっこがしたい」の声で、周りの子どもたちが衝立や椅子・テーブルを並べて診察室や待合室、薬局を作り、保育士が出してくれた聴診器・薬などと書いたカードを適当な位置に置きます。お医者さん役、患者役、薬屋さん役など、異年齢クラスのほとんどの子どもが関わる遊びに発展する場面もあります。また、園庭での遊びでも、ひとりで玉入れやボール遊びをしたり、みんなで鬼ごっこやサッカーで遊んだりしています。

日々の保育にあたっては、遊ぶ・食べる・寝るなどの活動時間に幅を持たせ、子ども一人一人のリズムや区切りを大切にする「流れる日課」が取り入れられています。例えば、散歩や園庭遊びで、みんなで外に出かけるとき、室内での遊びをそのまま続けている子どもがいても、保育士は急かしたり強制することではなく、部屋に残る子どもはほかの保育士に見守りを依頼しています。子どもたちが、自分の好きなことを中断せずに、じっくりと十分に遊び込める時間が毎日確保されています。

また、給食は、クラスの全員が一斉に食べ始めるのではなく、給食の時間内であれば、一人一人が自分の判断で食べたいときに摂ることができるようになっています。

保育士は、室内や戸外の遊びの場で、危険のないように見守りながら、遊びを発展させるよう、さりげなく話しかけたり、おもちゃや遊具などを補充したりしています。子どもたち一人一人が「自分のやりたいことができた、やりきった」という満足感と自己肯定感が得られるよう全員で取り組んでいます。

2. 独自に取り組んでいる点

●わらべうたを保育に取り入れています

園では、日々の生活のさまざまな場面で、わらべうたを取り入れています。歌いながら遊ぶことで、言葉を覚えるほか、友達と手を繋ぐなど互いにスキンシップを重ねることで、人に対する信頼感や思いやりの心が育つようにしています。また、子どもたちの集中力や遊びの流れが止まったときなどに、保育士がわらべうたを歌って気持ちを落ち着かせ、次の遊びにつないでいます。

年間指導計画中に、年齢別・期別に、わらべうたの曲名を設定し、外部から講師が月1回程度来園し、わらべうたを子どもたちに教えています。習った曲を日々の活動の中で随時取り入れ歌っているので、散歩で出かけた際に自然にわらべうたを口ずさんだり、隣のクラスでわらべうたの遊びが始まると、一緒に歌い出すなど、子どもたちも親しんでいます。

3. さらなる工夫が期待される点

●地域の子育て支援の充実が期待されます

子育て支援サービスとして、毎週土曜日に園庭開放をおこなっていますが、まだ利用者は多くないのが現状です。園の掲示板で知らせているだけなので、地域の自治会の協力を得て、掲示板を利用させてもらうことなどが考えられます。また、育児相談や地域住民に向けての子育てや保育に関する講習・研修会などを実施するには至っていません。子育て支援を充実し、より地域に根付いた園となることが期待されます。

●保護者との連携・交流を密にすることが期待されます

園では、連絡帳や連絡ノートを用いて、保護者と情報交換を密にするとともに、日々の活動の様子を「本日の活動」として、写真やイラスト等も用いて掲示し、迎えに来た保護者に伝えています。しかし、今回の利用者家族アンケートにおいて、「年間の保育や行事に関する説明」「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」「意見や要望への対応」などの項目では、「不満」「どちらかといえば不満」の回答が多くなっています。保護者とじっくりと話し合う機会を増やし、連携・交流を密にすることが期待されます。

◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果   
・園の基本理念は、「自立・自律を促進し、子どもと大人の関わり合いの中で育ちあっていく『響育』を心がけます。」です。それに基づき、保育方針を「生きる力の基礎を育てる。」「違いを認め合える気持ちを育てる。」と定めています。 ・基本理念・保育方針について、職員に資料を配付し、職員会議などで説明しています。 ・保育課程は、子どもの利益を第一義とし、基本理念・保育方針を踏まえて作成しています。作成にあたっては、保護者の就労状況などを考慮しています。今後はさらに、保護者に対して入園時や年度初めに配布するなどして、保育課程について説明することが期待されます。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。 ・職員は、子どもの年齢に応じ、適切な分かりやすい言葉で、必要なことを丁寧に説明するようにしています。 ・職員は、活動や遊びの中で、子どもたちの表情や態度、仕草などから、興味や関心を汲み取り、適切な対応をするよう心がけています。また、言葉で自分の思いを伝えることができる子どもからは、丁寧に聞き取るようにしています。 ・指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるよう配慮し、作成しています。また、子どもの様子や状況に応じて、その日の活動を変更したり、週案の見直しをしたりするなど、柔軟に対応しています。	

評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果   
・入園前に保護者と面談しています。入園までの生育歴や家庭での状況、体質、健康状況、食べ物の好き嫌い、家庭での呼び方などを書面で提出してもらい、面談の際にはそれをベースに詳しく聞き取っています。 ・保護者から提出された資料や面談時の記録は、個人別にファイルし、事務室の決められた書架に保管しています。 ・短縮保育（ならし保育）は、保護者と相談し個別に対応しています。ならし保育の時間は、少しずつ延ばしていき、子どもの様子を保護者に伝え、臨機応変に対応しています。 ・乳児に対しては、個別に主担当保育士を決めています。 ・乳児クラスは、所定書式の複写式連絡帳を用いて、毎日保護者と情報交換しています。幼児クラスはミニノートを使用し、必要に応じ情報交換しています。 ・0、1歳児が進級する際は、担任のうち1人は持ち上がりとなるようにしています。また、2歳児が進級する際は、3、4、5歳児合同の多人数のクラスなので、年度末の3月頃から、3、4、5歳児と一緒に活動する時間を設けるなどの配慮をしています。 ・子どもの発達や状況に応じて、クラスごとに月間指導計画・週案を作成し、クラス会議やケース会議で話し合っ、評価・改定しています。年間指導計画については、年度末の職員会議で、複数の職員が参加して、振り返りをおこなっています。 ・登降園時の保護者との会話や、運営委員会の中での保護者代表からの意見、相談ボックス（意見箱）への投稿内容などを考慮し、指導計画に反映させるようにしています。	

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
・掃除チェック表に基づき、掃除を毎日おこない、屋内・屋外とも清潔に保っています。特に0歳児室は、掃除をこまめにおこない、玩具を1日2回拭き、清潔に保つようにしています。 ・陽光を十分に取り入れるよう配慮しています。午睡のときは、それぞれの保育室の窓を天井までのカーテンを用い、遮光しています。 ・0歳児室、1、2歳児室、3、4、5歳児室は、仕切りの壁は無く、低い棚で区切られています。そのため、それぞれのクラスの音がお互いの活動の妨げにならないよう、あらかじめ保育士間で話し合っており、調整しています。 ・沐浴設備・温水シャワー設備があり、掃除チェック表に基づき、清掃・管理をおこなっています。 ・保育室内に、カーペットや畳などを敷いてコーナーを作り、子どもが集中して遊び込めるように配慮しています。 ・食事と午睡の場所は同じ部屋ですが、テーブルを片づけて午睡用のスペースを作るなど、時間によって使い分けています。	

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
・乳児については、毎月個別指導計画を作成しています。幼児は、特別な課題がある子どもについて、個別指導計画を作成しています。 ・個別指導計画は、定期的な見直し以外にも、状況に大きな変化があった場合は、月の途中でも柔軟に、変更・見直しをしています。また、離乳食やトイレトレーニングの開始時期など、保護者と話し合い、個別指導計画に反映させています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望などを、決められた書式に記録しています。 ・子どもの発達記録を作成しています。記録は、個人別にファイルし、事務室の書架に保管し、全職員が必要に応じ見ることができるようにしています。 ・進級時には、重要な申し送り事項を書類で連絡するほか、旧担任と新担任が話し合う時間を十分に確保しています。	

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
・クラス会議等で、特に配慮を要する子どもや気になる子どもについて、話し合っています。また、特に配慮を要する子どもの保育に関する情報を、緑福祉保健センターの保健師や横浜市北部地域療育センターの職員などから得ており、午後のミーティング・クラス会議・職員会議などで全職員に周知しています。 ・職員は、障害児保育に関する横浜市等がおこなう研修に参加しています。参加した職員は、職員会議で内容を報告するとともに、研修報告書を回覧し、全職員が情報を共有できるようにしています。また、保護者の同意を得て、緑福祉保健センターや横浜市北部地域療育センターから、助言や情報を得られる体制があります。 ・虐待防止マニュアルを作成し、全職員に周知しています。マニュアルには、虐待の定義などが記載されています。 ・虐待が明白になった場合や、虐待が心配されたり見守りが必要な場合には、緑福祉保健センターや横浜市北部児童相談所に通告・連絡し、連携して対応することとしています。 ・アレルギー疾患のある子どもの場合、医師からの「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、保護者と話し合い、適切な対応をしています。 ・食物アレルギーのある子どもの場合、個別献立表を作成し、保護者と確認し除去食を提供しています。除去食を提供する場合は、給食室での受け渡し時に職員同士で声をかけて確認するとともに、保育室でも職員同士で再確認しています。また、食器に目印をつけたり、テーブルを分けたりしています。幼児クラスでは、食物アレルギーのある子どもの献立の違いについて、職員が、ほかの子どもたちに丁寧に説明しています。 ・文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。宗教上の理由で特定の食材を用いることができない場合に、ほかの献立などで対応した例があります。 ・文化や生活習慣の違う国や地域があることを「せかいのひとびと」「世界の台所」などの絵本で子どもたちが知ることができるようにしています。また、世界の主な国のあいさつの言葉を玄関に掲示しています。	

評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
・苦情解決の仕組み規定を定め、苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長とし、重要事項説明書に記載しています。また、苦情解決のための仕組みを文書で保護者に周知するほか、概要をフローチャート形式で表示し、玄関に掲示しています。 ・第三者委員（2名）に直接苦情を申し立てることができるようになっていきます。 ・相談ボックス（意見箱）を玄関に設置しています。また、クラス懇談会や運営委員会などで要望や意見を聞いています。また、行事後には、保護者に対しアンケートを実施しています。 ・要望や苦情などがあつたときは、昼礼などで報告し、職員に周知しています。解決・改善策は職員会議などで話し合っています。また、過去の苦情・トラブルなどを記録していますが、今後はさらに、苦情には至らない要望なども記録・蓄積し、業務の改善に役立てることが期待されます。 ・重要事項説明書に、行政窓口として、緑福祉保健センターを記載していますが、苦情・要望などを保護者が直接申し立てることができることを明示することが期待されます。また、外部の権利擁護機関として、横浜市福祉調整委員会、かながわ福祉サービス運営適正化委員会等を記載するなどの工夫が期待されます。	

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果 
・乳児クラスは手作りの布製のおもちゃやブロック、ままごとなど子どもの目の高さにあり、自分で選んで取り出せるようになっていきます。棚にはおもちゃの写真シールが貼られていて乳児でも自分で片づけられるようになっていきます。2歳児は各自一人の抱き人形があり、名前を自分でつけ、洋服やおむつ、ベッド、布団等も用意されています。 ・幼児クラスはカードゲームやパズル、カプラやブロック、粘土や色紙、ままごとや人形、子ども用の衣装、絵本等たくさんのおもちゃや教材を自分で取り出して自由に遊べるようになっていきます。また、おもちゃの難易度や、季節、子どもたちの興味、関心、発想等に合わせ、定期的におもちゃの入れ替えをおこなっており、乳児にはトラブルにならないように同じおもちゃを多く準備する等配慮し、環境構成に配慮しています。 ・遊び、食べる、寝るなど、生活の時間に幅を持たせ、子どもたち個々のリズムや区切りを大切にする「流れる日課」を取り入れています。子どもたちが「自分のやりたいことをやりきった」という満足感・達成感を得、自己肯定感が育つようにしているため、子どもたちは好きな遊びを中断されることなく、遊び込める時間が毎日十分に確保されています。 ・子どもたちは一人で粘土遊びをしたり、絵本を読んだり、数人でままごとをしたり、協力してカプラでひとつの物を作ったり、病院ごっこをしたり、それぞれが自由に好きな遊びをしています。 ・異年齢クラスでは子どもたちの発想から、宇宙ごっこになり、宇宙服や宇宙ステーションを作ったり、宇宙レストランなどに発展し、保護者懇談会の前に保護者参加と一緒に遊びました。保育士は子どもの自由な発想を受け止め、集団活動に取り入れています。 ・5歳児は自分たちでそれぞれ選んだ野菜の苗を近隣の店舗に買いに行き、園庭のプランターで育て、収穫しておやつに出してもらったり、異年齢クラスで稲を育て、瓶の中に入れ、棒で突いて脱穀し精米して、おにぎりにして食べたりしました。また、子どもたちはメダカ・ザリガニ・カブトムシ・アゲハチョウなど卵から育て、観察し、保育士は命の大切さや繋がりを伝える等、保育にフィードバックしています。 ・幼児クラスでは、はさみ・のり・クレヨン・セロハンテープ・お絵かき用の下敷きなどの道具や、折り紙・色画用紙・自由画帳・三つ編み用のスズランテープ・廃材などがいつでも自由に使えるようになっていて、子どもの発想や創造力を伸ばせるように配慮されています。また、各自の棚があり子どもたちは自分が作ったものを自由にしまふことができます。 ・子どもの年齢や発達に合わせて自由に表現できるように配慮しています。わらべうたを保育の中で取り入れ、積極的に歌ったり遊んでいます。また、子どもたちは豊富なおもちゃや教材を自由に使って表現しています。作った作品は展示されています。 ・子ども同士のけんかについては、保育士は危険がない限り、子ども同士で解決できるよう近くで見守っています。子ども同士で解決できないときは、間に入り、双方の話をじっくりと聞いて仲立ちし、お互いが納得できるよう手助けしています。 ・1、2歳児、3、4、5歳児は異年齢で日常的に過ごしています。誕生会は全園児で誕生日当日に祝っています。 ・散歩や園庭遊びを積極的に取り入れています。また、年間を通して子どもの発達過程に応じた運動を月案に盛り込んでおり、子どもの健康状態を把握したうえで、個々に合わせた活動をおこなうようにしています。園庭では、古タイヤ・コンテナ・縁台や一本橋などを使用したり、竹のぼり、ボールや縄跳びなど、子どもの発達段階に応じて運動能力を高めるような遊びを工夫しています。室内ではトランポリンやハードルなどを利用しています。乳児では手作りの斜面になった大型遊具や、マットを利用した運動遊びや手作りの一本橋などを通して運動機能を高めています。	

評価分類Ⅱ－１ 保育内容【生活】	評価結果
・乳児クラスでは食べきれる適量を保育士が配膳し、子どもが、食べきったという満足感を味わえるようにしています。幼児の主菜・副菜は標準的な量を見本に置き、自分で食べきれる量を取り分けて食べるようにしています。また、主食や汁物は保育士が本人に確認しながら量を調節して取り分けており、おかわりができる配慮もしています。苦手なものに関しては、一口でも食べられるように励ましたり、誉めたりする等、配慮しています。 ・食事をする際は家庭で食べているような雰囲気作りを心がけています。たとえば幼児クラスでは、ごはんをおひつに入れたり、お茶をポットに入れて各テーブルに置くなどしています。また、子どもたちが作った花瓶をテーブルに置き、野花を一輪飾ったり、日によってはみんなの顔が見えるようにテーブルを動かしたり、工夫しています。幼児クラスは月に一度、正座で姿勢よく食べる機会を設けています。この日はみんな一緒に食べ始めるので「のぞみレストラン」と言って子どもたちは楽しみにしています。 ・調理室が保育室に面しているので、栄養士や調理職員は調理室から子どもたちの食事の様子を見ることができですが、保育室に行き、直接子どもたちの声を聞いて、献立や調理方法に活かしています。 ・毎月園だよりで献立作成のポイントや食材の紹介、レシピ等を掲載し、給食に関する情報を提供しています。また、保護者懇談会の際に給食を試食する機会を設けており、レシピを配布したり、味付け、刻み方等配慮している点を保護者に伝えたりしています。 ・午睡時は部屋に遮光・遮音カーテンを引いたり、子どもがいつも心地よく眠れるようにどの保育士も同じ子守唄を歌ったり、さすったり配慮しています。また、乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、0～2歳児クラスでは5分おきに呼吸をチェックし、記録しています。チェック忘れが起きないように、小さな音とバイブレーション機能のあるタイマーを使用しており、うつ伏せになってしまった場合はあおむけにする等の対応をしています。 ・トイレトレーニングは排尿間隔の記録を基に保護者とも連携を取り、一人一人の状況に応じて個別に対応しています。	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】	評価結果
・「保健衛生マニュアル（保育園の保健と健康管理について）」、「感染症対策マニュアル（感染症予防のための衛生管理対策）」があります。 ・既往症や予防接種等については入園時に面接等で保護者から情報を得て、健康台帳に記載し、入園後も最新の情報が得られるように努めています。子どもの健康状態についての情報はミーティングノートや昼礼・職員会議にて職員は共有しています。 ・健康診断や毎月の身体測定の記録、歯科健診の記録は健康診断記録と歯科健康診査票に記入しており、個人ファイルに保管しています。 ・嘱託医とは子どもの健康について意見交換・情報交換する機会を設けており、日常的に連携を密にしています。 ・登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応、登園許可書等をマニュアルに明記しています。また、「入園のしおり」に明記されており、毎年の進級説明会および新しい園児が入園する際には保護者に説明をおこない、周知しています。	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果
- 衛生管理マニュアルがあり、マニュアルの見直しは年度末にはおこなっています。マニュアルの内容を職員が周知するために園内研修をおこなったり、職員会議で読み合わせたりしています。 - マニュアルに基づき、清掃チェック表を用いて、保育室やトイレ、調乳室、調理室等の清掃がおこなわれています。また、乳児のままごとセットなどのおもちゃは午睡中に拭いており、各部屋や備品は清潔で適切な状態が保たれています。	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
- 安全管理に関する「危機管理マニュアル」があります。 - 滑り止めを使用した可動式の低い棚でコーナー設定をおこない、月１回、設備保全チェックリスト・環境保全チェックリストを用い、全職員で安全管理の点検を実施し記録しています。また、修繕箇所があればその都度修繕をしています。 - 毎月、地震、火災、不審者対応などを想定した避難訓練を実施しています。広域避難場所への避難訓練も実施しており、避難訓練時には、常勤、非常勤の職員が通報の訓練を持ち回りで実施しています。避難訓練後には必ず振り返りをおこなっています。夕刻の地震避難訓練の際、消灯したことにより、子どもたちが不安になり、かえって避難に時間がかかったことから、電力会社や横浜市防災センターに相談、助言をもらい改善しました。 「事故発生対応マニュアル」「病気 緊急対応ファイル」があり、救急機関や保護者等への連絡体制が確立しています。事務室にかかりつけ医や診察科別の医療機関の連絡先が掲示されています。 - 緑区警察署、緑区消防署、警備会社との緊急通報体制ができています。 - 玄関入口は常時オートロックで施錠されています。外階段については、園庭側は施錠しています。園内の複数個所に防犯カメラを設置し、事務室で確認しています。防犯カメラ設置の貼り紙を貼っています。警備会社と契約しており、昼夜問わず異常が発生した際は連絡が入ることになっています。緑警察署の協力で、職員に対して不審者対応訓練の園内研修を実施しています。	

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重	評価結果
	
・園の理念として「響育」を掲げており、保育士は子どもとお互いを認め合い、人格を尊重しあうよう努めているので、威圧的な言葉遣いや無視などはおこなわれていません。保育士は子どもたちにわかりやすい言葉で話し、声のトーンも優しく穏やかです。せかしたり、強制するようなことはなく、上手に言葉かけをして、子どものやりたくなる気持ちを待っています。保育士は子どもの目線に合わせ、話にじっくりと耳を傾け、子どもの思いや考えをつかむようにしています。 ・コーナーや押入れの下など友達の視線を意識せずに過ごせる場所があります。また廊下やテラス、玄関ホール等必要に応じて子どもと一対一で落ち着いて話し合える場所があります。今後小さな衝突などを利用してさらに工夫する予定があります。 ・個人情報の取り扱いについての保護方針、個人情報管理規定を定め、毎年全職員を対象にした PMS 研修（個人情報保護）を園内にて実施しています。個人情報に関する記録は全て施錠できるキャビネットに保管・管理しています。 ・遊びや行事の役割、持ち物、服装、呼び名や並び順等などで性別による区別によらず、子どもたちの気持ちを尊重しています。 ・園はジェンダーフリーについてのガイドラインを定めるとともに、無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、園内研修をおこない、非常勤職員も含む全職員に周知し、職員同士で反省する仕組みがあります。	

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携	評価結果
	
・保護者に対し、懇談会で基本理念、保育方針、保育内容について説明したり、行事の園長挨拶の際にも基本理念に触れています。また、毎月「樺だより（園だより）」を発行し、基本理念、保育方針が理解されるようにしています。 ・保育士は朝夕の登降園の際にその日の子どもの様子を伝えています。また、乳児は毎日複写式連絡帳を用い、保護者ときめ細かに情報交換をしています。幼児は必要に応じて連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。 ・6月と12月に個人面談をおこなっています。また、希望があれば随時受け付けています。保護者アンケートの結果を踏まえて面談の開催方法等さらなる工夫が期待されます。 ・保護者から相談を受けた職員は園長・主任に報告・相談し助言を受けられる体制になっています。また、相談内容は記録し、職員間で情報共有しており、継続的にフォローができるようにしています。 ・毎月、園だより「樺だより」を発行しており、「クラスより」「きゅうしょくより」を掲載し、子どもの園生活に関する情報を提供しています。また、日常の保育の様子を写真やイラストを用いて「本日の活動」に記載し、掲示して知らせるほか、年間2回に分けて保護者に写真販売をおこなっています。 ・年間行事予定表を年度初めに配付しています。再度、園だよりや掲示でも知らせて保護者が参加しやすいように配慮しています。 ・保護者会はありませんが、卒園式後の茶話会などの保護者同士の準備・話し合いの場所などの提供をおこなっています。	

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果 
・園見学に来た親子や行事に参加した地域住民、地元の自治会長等との会話の中から園に対する要望を聞いています。 ・緑区がおこなっている未就学児親子を対象としたイベント「みどりっこまつり」実行委員会に参加したり、幼保小の連絡会議、合同園長会議などに参加し、子育て支援ニーズに対する情報を得ています。その内容について地域の子育て支援で何ができるかを職員で話し合っています。 ・園庭開放を毎週土曜日におこなっていますが、まだ利用者は多くありません。広く周知されるために情報提供の工夫が期待されます。 ・調査時点では地域住民に対する相談事業や、講習会や研修会は開催されていませんが、２９年度はわらべうたの講習会を検討しています。	

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果 
・園の外掲示板に絵本の紹介や行事への参加の呼びかけ、わらべうたの紹介、給食のレシピ、園庭開放の内容等、掲示し、地域住民に対し情報提供しています。 ・緑区こども家庭支援課、横浜市北部児童相談所、緑区地域子育て支援拠点「いっぽ」等の必要な関係機関をリスト化し、職員がいつでも見ることができるようにしています。関係機関との連携の担当は園長・主任がおこなっており、いつでも連携できる体制ができています。 ・園見学者や行事参加者からの相談は受けていますが、今後は定期的に育児相談日を設けることが期待されます。	

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果
・夕涼みや親子で身体を動かそう（運動会）に地域住民や第三者委員を招待しています。また、行事案内のチラシを園の外掲示板に掲示して、地域住民の参加を受け入れています。 ・日頃から散歩のときには、保育士や子どもたちは地域住民にあいさつをしています。また、竹のぼりの竹や昆虫をもらった地域の方に芋ほりの芋をおすそ分けしたり、友好的な関係を築く取組をおこなっています。 ・散歩の際に子どもたちや保育士は地域住民とあいさつを交わしています。農家の人に稲の栽培方法を教えてもらったり、近くの畑で、芋掘りをしたり、５歳児は野菜苗やカレー作りのときの食材を近隣の店舗に買いに行ったりして交流しています。 ・近隣の民間保育園と５歳児交流でドッジボール大会やゲームをするなど、交流しています。園のおやつクッキーを作ってくれている障害者作業所へ公共交通機関を使って毎年見学に行き、障害者の方と園児が交流しています。 ・調査時点では町内会やボランティアグループ等、定期的な交流はおこなわれていません。より一層地域のグループと交流が深められることが期待されます。また、地域への備品の貸し出し等はおこなわれていません。今後は絵本の貸し出しを検討しています。	

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供	評価結果
・園の基本理念、園の特徴、利用条件などを掲載したホームページ、パンフレットを作成し、パンフレットは「みどりっこまつり」等で配布しています。また、「ヨコハマはびねすぽっと」や緑区の広報誌に保育園の必要な情報を提供しています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問い合わせに対しては、パンフレットを用意し、主任が主に窓口となり、常時対応できるようにしています。 ・利用者には見学ができることを案内しており、見学者の都合に合わせ曜日・時間などは調整して、園長・主任が案内しています。	

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ	評価結果
・ボランティア・実習生の受け入れマニュアルがあります。オリエンテーションで園の方針や配慮すること、守秘義務等を説明しています。 ・ボランティアや実習生の受け入れの担当は園長・主任がおこない、受け入れの記録があります。 ・受け入れにあたり、保護者や子どもたちには受け入れの趣旨や保育園の役割等が理解されるよう説明会や懇談会で説明し、また日程などを園だよりで知らせて、理解されるようにしています。 ・毎日、実習生と担当した保育士は振り返りをおこない、また、最終日には関わった職員、園長と反省会を持ち、意見交換をしています。	

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－１ 職員の人材育成	評価結果
	  
・園運営に十分な人材構成となるように、経験年数などを考慮し、必要に応じて人材の補充をおこなっています。 ・園内研修のテーマ・年間予定を立て、必要な職員が受講できるようにしています。 ・職員は、横浜市などがおこなう研修に参加しています。参加した職員は、職員会議で内容を報告するとともに、研修報告書を回覧し、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・非常勤職員にも、保育の手引きを配付しています。また、非常勤職員に対し、園内研修に参加できるよう配慮しているほか、必要な外部研修にも参加できるようにしています。 ・一人一人の職員が、目標を設定し、その達成度を評価する体制を構築することが期待されます。	

評価分類Ⅴ－２ 職員の技術の向上	評価結果
	 
・外部研修などで、他園の工夫・改善した良い事例を得た場合は、職員会議で報告し検討しているほか、園長が得た事例なども報告しています。 ・毎月、外部の講師を招き、わらべうたの指導を受けています。 ・年間指導計画・月間指導計画・週案には、振り返りと反省の欄を設け、保育士等一人一人が自己評価するようにしています。 ・保育の指導計画に関する自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けておこない、子どもの意欲や取り組む姿勢がどうであったかなどを重視しています。 ・指導計画の自己評価結果や、職員の意見などから、園としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいます。 ・園としての自己評価は実施していませんが、調査時点では、どのような観点からおこなうかを整理・準備中です。	

評価分類Ⅴ－３ 職員のモチベーションの維持	評価結果
	  
・人事考課の職務記述書の中に、経験年数や習熟度に応じた役割・期待水準を明記しています。 ・毎年、事業計画書に職員配置と業務内容を明記し、日常の保育や保護者との対応など、それぞれの担当者が責任を持って対応するようにしています。 ・園長は、職員との個別面談時等に園運営や業務に関する改善意見を聞いています。また、会議の場だけでなく、いつでも園長や主任に、改善提案をしたり意見を述べたりすることができます。 ・園長は、年に３回、職員と個別面談し、満足度・要望などを把握しています。	

評価分類VI－1 経営における社会的責任	評価結果
・就業規則の服務規律の中に、倫理綱領を記載し全職員に周知しています。また、年度初めに、本社にてコンプライアンス研修を全職員に対しおこなっているほか、毎年、事業計画書に、全国保育士会倫理綱領を記載しています。 ・他施設での不正・不適切な事例などを入手したときは、職員会議などで報告し、職員に周知・啓発しています。 ・ゴミの分別を行っています。幼児クラスの部屋には分別用のゴミ箱を設置するとともに、横浜市環境資源局の職員がゴミ分別に関する話を子どもたちに対しておこなっています。また、ペットボトルキャップの回収運動に協力しているほか、牛乳パック、空き箱、空き容器などを利用して、職員がおもちゃや遊具を手作りしています。毎年、保護者にも呼びかけ空き容器の回収をおこない、子どもたちの工作材料としています。 ・無駄な電灯をこまめに消したり、トイレの照明はセンサーを取り付け、自動的に点灯・消灯するようにしたり、省エネルギーに努めています。緑化への取組として、園庭のプランターで草花や野菜を育てています。ケナフを栽培し、子どもたちの紙づくりの素材として利用しています。 ・経営、運営状況等の情報を公開するには至っていません。事業報告書等を保護者代表や外部委員が参加する運営委員会で開示するなどの工夫が望まれます。	

評価分類VI－2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果
・園の基本理念・保育方針を園の玄関や事務室に掲示しているほか、年度事業計画の中で、基本理念・保育方針の考え方を詳しく記載しています。また、園内研修で職員に説明、周知しています。 ・園長は、朝夕の送迎時にできるだけ保護者とコミュニケーションを取るようにしています。また、クラス懇談会や運営委員会などで保護者と意見交換しています。 ・重要事項が決定されたときは、職員会議などで目的・決定理由・経過などを十分に説明しています。また、保護者には、掲示や文書を用いて知らせています。 ・主任は、日々現場に出て個々の職員の業務状況を把握しているほか、クラス会議などにも出席し、個々の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導をおこなっています。 ・主任は、できるだけ職員に声かけし、その日の職員の様子や状況を把握しているほか、個別の相談にも応じています。また、勤務シフトを作成するにあたり、個々の職員の事情なども配慮し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。	

評価分類VI－3 効率的な運営	評価結果
・事業運営に影響のある情報は、緑福祉保健センターや本社事業部から得ています。園長と本社担当者でミーティングをおこない、分析・検討しています。 ・重要な情報は、園長・主任会議で検討した上、職員会議等で報告し、園全体で情報を共有するようにしています。 ・本社でおこなわれる毎月の園長会などで、運営やサービスの新たな仕組みを検討しています。 ・運営に関し、他施設の元園長などからアドバイスを得ています。また、運営委員会メンバーである学識経験者の意見も取り入れるようにしています。 ・中長期的な事業計画は作成していません。今後の環境変化等を考慮した計画を作成することが望まれます。	

◆利用者家族アンケート分析◆

【実施概要】

■実施期間：平成28年10月17日～10月31日

■実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

■回収率：配付25件、回収14件、回収率56.0%

★文中の「満足度」は「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値です。

【結果の特徴】

【問1】の「園の保育目標や保育方針を知っているか」については、50%の保護者が「まあ知っている」と答え、「どちらともいえない」「あまり知らない」が残りの50%となっています。「まあ知っている」と答えた保護者のうち、86%が、保育目標や保育方針について「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】～【問7】の設問では、多くの項目で、80%以上の満足度を得ています。そのうち、90%以上の満足度の項目は、次の通りです。

問2「入園時の対応」“園の目標や方針についての説明”・・・100%

問7「職員の対応」“子どもが保育園生活を楽しんでいるか”・・・100%

問2「入園時の対応」“入園時の面接などで子どもの様子や生育歴などを聞く対応”・・・93%

同 上 “保育園での1日の過ごし方についての説明”・・・93%

同 上 “費用やきまりに関する説明”・・・93%

問6「園と保護者との連携・交流」“園だよりや掲示などによる、園の様子や

行事に関する情報提供”・・・93%

同 上 “送り迎えの際、子どもの様子に関する情報交換”・・・93%

同 上 “子どもに関する重要な情報の連絡体制”・・・93%

問7「職員の対応」中の”子どもが大切にされているか”・・・93%

【問2】～【問7】の設問で、「不満」「どちらかといえば不満」の回答が、多かったのは、次の項目です。

問3「保育園に関する年間計画」“年間の保育や行事に関する説明”・・・29%

問4「日常の保育（遊び）」“子どもが戸外遊びを十分しているか”・・・29%

問4「日常の保育（生活）」“保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応”29%

問5「保育園の快適さや安全対策」“施設設備”・・・29%

問6「園と保護者との連携・交流」“保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会”21%

問7「職員の対応」“開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、

残業などで迎えが遅くなる場合の対応”・・・21%

同 上 “意見や要望への対応”・・・21%

【問8】の総合満足度は、79%です。（「満足」29%、「どちらかといえば満足」50%）

・自由記述欄では、“行事が少なくなってしまった”などの意見があります。

十日市場のぞみ保育園 利用者家族アンケート集計結果

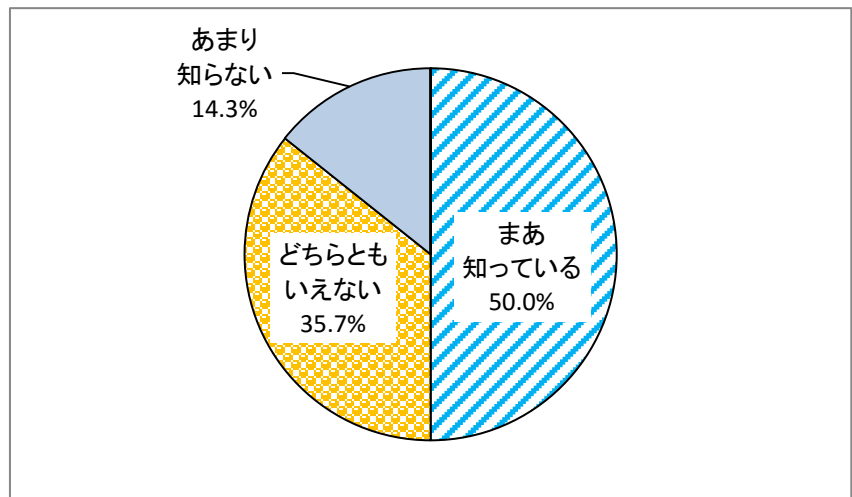
実 施 期 間	平成28年10月17日～10月31日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	25 件
有 効 回 答 数	14 件
回 収 率	56.0 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	1	3	3	2	4	1	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

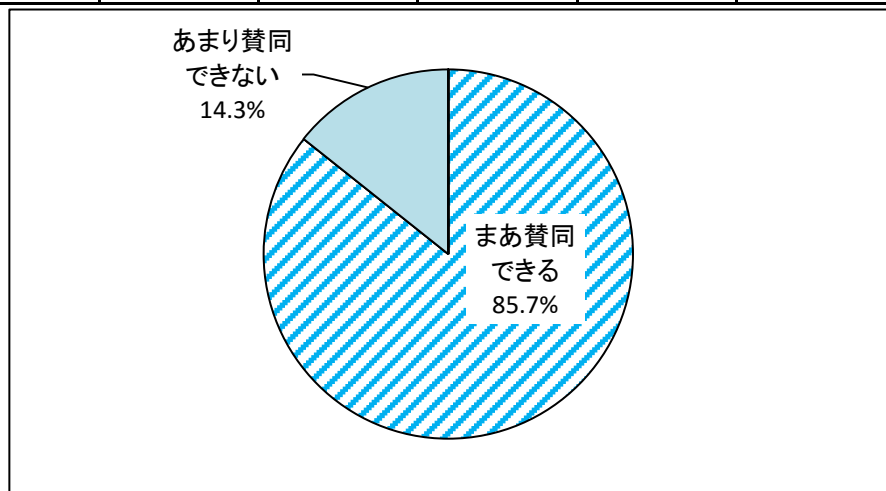
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	0.0	50.0	35.7	14.3	0.0	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	0.0	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	42.9	28.5	7.1	0.0	21.4	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	21.4	64.3	7.1	0.0	7.1	0.0	
園の目標や方針についての説明には	21.4	78.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	78.6	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	71.4	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	64.3	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	28.6	35.7	28.6	0.0	0.0	7.1	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	14.3	64.3	7.1	7.1	0.0	7.1	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	42.9	35.7	14.3	0.0	0.0	7.1	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	42.9	21.4	21.4	7.1	0.0	7.1	
園のおもちゃや教材については	28.5	57.1	0.0	0.0	7.1	7.1	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	35.7	50.0	7.1	0.0	0.0	7.1	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	21.4	64.3	7.1	0.0	0.0	7.1	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	21.4	64.3	7.1	0.0	0.0	7.1	

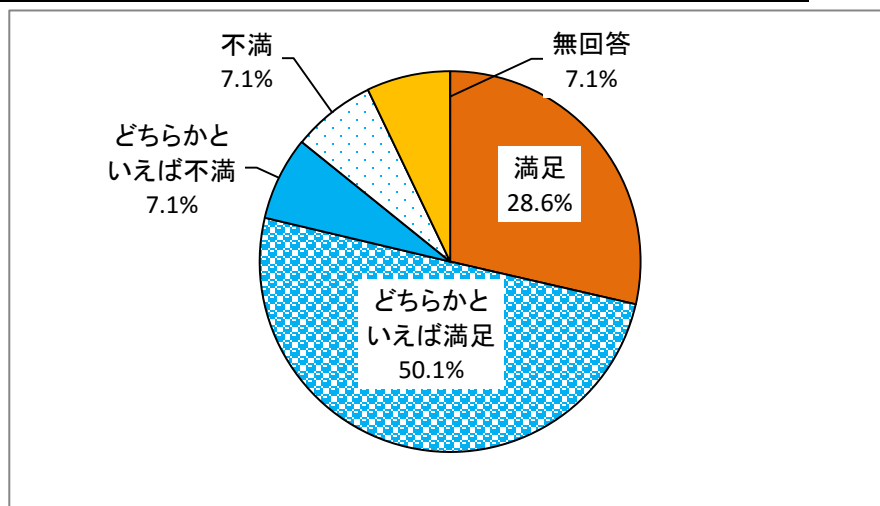
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	64.3	14.3	7.1	7.1	0.0	7.1	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	57.1	28.6	0.0	7.1	0.0	7.1	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	57.1	28.6	0.0	7.1	0.0	7.1	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	42.9	35.7	7.1	7.1	0.0	7.1	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	42.9	42.9	0.0	7.1	0.0	7.1	
お子さんの体調への気配りについては	64.3	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	57.1	7.1	21.4	7.1	0.0	7.1	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	14.3	50.0	21.4	7.1	0.0	7.1	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	14.3	64.3	14.3	0.0	0.0	7.1	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	21.4	57.1	7.1	7.1	0.0	7.1	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	42.9	35.7	14.3	0.0	0.0	7.1	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	35.7	35.7	21.4	0.0	0.0	7.1	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	42.9	50.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	28.6	57.1	7.1	0.0	0.0	7.1	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	28.6	50.0	0.0	21.4	0.0	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	42.8	35.7	7.1	0.0	7.1	7.1	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	42.9	42.9	7.1	7.1	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	28.6	50.0	21.4	0.0	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	28.6	50.1	7.1	7.1	7.1	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

■実施日時：平成28年12月26日、12月27日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また、幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

月齢の高い子どもは1、2歳児と一緒に散歩に出かけます。担当保育士と手をつなぎ、1、2歳児の後ろからついて歩きます。道路を渡るときには前を歩く1、2歳児の真似をして、しっかり手を上げて渡り、「上手に渡れるね～」と褒めてもらい嬉しそうです。公園を整備しているパワーシャベルやロードローラーを見て指を指し、保育士の顔を見えています。「パワーシャベルね、土を掘っているね」と答えてもらい、うなずいています。電車やバスを駅に見に行きました。「あっ！」と指さしたり、手を振ったり、声を上げ、嬉しそうです。1、2歳児と同じコースをしっかりと歩いて帰りました。

散歩に行かなかった子どもは空いている1、2歳児の部屋に遊びに行き、ままごとで遊びます。保育士が皿に食べ物を入れ、「どうぞ」と差し出すとありがとう、と言うように頭をさげ、モグモグと食べる真似をしたり、どうぞ、とお返ししたり、やり取りをしています。そこへ異年齢クラスからわらべうたが聞こえてきました。保育士と一緒に歌うと、嬉しそうに身体でリズムを取っています。

散歩に行っていた子どもも帰ってきたので、0歳児室に戻ります。準備のできた子どもから1人ずつ担当保育士と給食を食べます。「モグモグ」「噛み噛み」「おいしいね」と保育士は声をかけ、援助してもらいながら自分でスプーンを持って食べます。ほかの子どもは遊んで待っています。

●1歳児クラス

ままごとのコーナーではテーブルの上に皿やコップを並べています。椅子に座って色水を入れたペットボトルからコップに入れる真似をして、どうぞと渡しています。もらった子どもはゴクゴクと言って飲む真似をしています。別のコーナーではブロックを並べて電車にみたてて走らせています。「貸して」と言われても知らん顔している子どもに保育士が「貸して、って言われているよ」と声をかけますが、「いや～！」と首を振っています。保育士は「嫌なんだね、じゃ、もう少し待っててね、って言おうね」と声をかけ、保育士も一緒に「待っててね」と言ったので、どちらも納得してまた遊びはじめました。

頃合いをみて保育士が片づけ始めると自然に子どもたちも片づけ始めます。紙パンツを持ってトイレに行き、便座に座ると、「出た～」という子もいれば「出ない～」という子もいます。子どもたちは新しい紙パンツ、ズボンを少し手伝ってもらいながらも自分で穿いています。保育士はテーブルにビニールシートを敷いて画用紙、クレヨンを出します。子どもたちは好きな色で自由に描きます。「雨～」と言って線をたくさん引いている子どもにはタイミングを見て保育士がわらべうたで雨の歌を歌っています。食事は保育士が1対1、もしくは1対2で関わられるように順番に食べ始めていきます。それぞれの子どものペースを大事にして、食べる意欲、咀嚼力に応じ、声かけをしたり援助したりしています。どの子どもも残さず食べています。

●2歳児クラス

雨で外遊びができない日ですが、テラスにマットを敷き、テーブルの片脚を折って斜面にしたり、ハードルをくぐったり、飛び越えるようにセットしたり、1本橋のように箱積み木を並べたりして、身体を動かして遊べるようにしました。子どもたちは靴を履き、帽子を自分でかぶって、順番に取り組みます。こわごわ1本橋を歩く子もいればサッと通り抜ける子もいます。すべり台を嬉しそうに滑る子も滑らずポンと飛び降りる子もいますが、「飛び降りるのが好きなのね」と無理強いはしません。保育士は危険のないように見守り、子どもたちの動きを見て、ハードルを小さなフープに換え、グーと両足をそろえたり、パーと広げて跳ぶようにしたり、少しずつ遊びを換えて変化を持たせます。保育士は楽しい雰囲気になるようにわらべうたを歌い、子どもたちは繰り返し遊びます。保育士に手を借りないと飛び降りられなかった子どもも3回目には手を借りずに飛び降りることができました。身体を十分動かしたので、どの子どもも満足そうです。

順番に食事になります。自分のエプロンがテーブルに置かれたのを見ると、遊んでいたおもちゃを片づけ、手を洗いに行き、座る子どもや保育士に声をかけられて、片づけて来る子どもがいます。「まだ～」と言って遊び続けている子どもには無理に誘わず保育士は待っています。「おいしいね～。〇〇ちゃん、おいしいよ～」と食べている子どもと遊んでいる子どもにも声をかけると、しばらくして遊んでいた子どもも自分で片づけてテーブルにつきました。

●3・4・5歳 異年齢クラス

1日目 朝の自由遊びの後、週に何回か取り入れているわらべうたの時間になりました。輪になって集まります。2人組で向かい合い足を伸ばし座ります。手を取り合って「ぎっこん ばったん…」「ねずみ ねずみ どこいきゃ」と続きます。歌いながら身体を揺らし、二人の息も合っています。手を放し「おもやの餅つき」次は立ち上がって輪になり、役決めの歌のあと、「郵便配達えっさっさ」と紙片を渡して役交代のわらべうた、「こんこんさん 遊びましょ」と鬼ごっこに移ります。キツネ役を全員がしたら、お正月が近いことを話し、お手玉を使って「ぺったら ぺったら 餅つけ 餅つけ…」と続きます。動と静のわらべうたを組み合わせ、子どもたちは飽きずに楽しそうに長い時間楽しみました。その後、園庭に元気に出て行きました。園庭ではバスケットゴールにボールをシュートしたり、氷鬼をしたり、自由に遊びます。サッカーをしようと組立て式のゴールを出して来た子どもを見て保育士はじょうろの水でコートを描きます。コートから出たら、蹴るか手で投げ入れるか、説明をします。じゃんけんをして2組に分かれサッカーが始まります。自分で食事の時間を考え、時計を見て部屋に戻って行きます。

2日目 テーブルでは粘土遊びをしています。床では不織布を敷いてトラックや自動車を走らせて遊んでいます。白い布の上を走らせると「雪が積もっているみたい」と一人が言います。すると保育士が白い綿を持って来て、「これどう？」と見せると「やった～！雪だ！運ぼう！」と綿をちぎってトラックの荷台に積んで動かしたり、ブロックで作った家の上に積もらせたりしました。すぐそばでは自分たちで囲いを作り、その中に入り、カプラで遊んでいます。高い塔を協力して作ったり、坂道を作り、ビー玉を転がせる道を作ったりしています。誰かが「お医者さんごっこがしたい」と言いました。保育士は押入れから聴診器や薬、待合室等書かれたカードを出します。子どもたちは衝立を出してきて、布をかけて広げ、診察室を作ったり、椅子を並べて待合室を作ったり、ままごとコーナーからテーブルを持ってきて薬局を作ったりします。

人形を抱いたお母さん役の子が「昨日から熱が下がらなくて…」など言ってお医者さん役に見てもらっています。「2日分のお薬です」とレジを使い、お金のやり取りもあります。クラスのほとんどの子どもが関わっていました。時間の経過で遊びは発展したり、終わったりしますが、年齢で固まることなく異年齢でどの遊びも楽しみ、どの子どももじっくり遊んでいます。けんかになりそうなときも、保育士が見守っていると、5歳児が声をかけ、また穏やかに遊ぶ場面がありました。

今日は大掃除をする、と昨日の帰りの会で伝えてありました。各自の制作物がしまっておく引き出しを整理し、中身を持ち帰るためのスーパーの袋を持ってくるようになっていましたが、何人かは忘れたようです。保育士は持って来た子どもには「ちゃんとお母さんに伝えてくれたのね、ありがとう」と言い、忘れた子どもには園のビニール袋を「今度は忘れないでお母さんに伝えてね」と渡しています。

制作の引き出しがきれいになったら、洋服の入っているロッカーの引き出しです。部屋にバケツを持ってきて、各自雑巾をもらいます。園長が来て、子どもたちの前で実際に絞って見せ、手の向き、搾り方の説明をします。着替え1組を残してリュックサックに入れ、中を拭きます。5歳児は3歳児を手伝います。

ロッカーも綺麗に拭けたら、床も一列に並んで拭きました。「ピカピカになった～」と歓声があがります。食事の時間です。普段は自分たちのペースで食べ始めを決めていますが、今日は3歳児から準備を始め、5歳児は布団の用意をしてから食事にします。調理室の前のテーブルでアルコール消毒をして、並べられた箸、スプーン、紙ナプキン、コップを順に取り、席に置きます。主菜・副菜の盛られた見本を見ながら自分でよそいます。おひつに入ったご飯やみそ汁は保育士がどのくらいの量を入れるか聞いてよそって渡します。各テーブルにはお茶がポットに入っていて自分で入れ、自分でいただきます、と手を合わせて食べ始めます。楽しそうにおしゃべりをしながら食べています。おしゃべりに夢中になる子どもには「大丈夫？手が止まっていますよ」等保育士は声をかけ、時計を意識させています。お代わりをする子どももいます。手伝ってもらうことなく、上手に集めて食べています。ごちそうさまを言い、下膳したあと、洗面台で歯磨きをし、保育士に仕上げ磨きをしてもらう子どももいます。

◆ 事業者コメント ◆

第三者評価を終えて 感想

●職員からの感想

- ・第三者の方の目から見た感じ方を知り、自分の保育を改めて考えるよいきっかけとなった。
- ・自身の日頃の保育について改めて振り返ることが出来、反省する点や職員と話し合うことで今後に活かせるが出来るきっかけとなった。指摘されることで気が付かなかった課題が見えた。
- ・第三者評価を通して園全体の保育のあり方を見直すきっかけとなったように思う。また、話し合いを行ったことで、他の保育士がどのような考えを持っているかを知ることができ、意識を統一させて保育に取り組むことにつながったのではないかなと思う。
- ・日頃の保育や施設のことなど見直すよい機会となった。これがきっかけで、1，2歳用のパーテーションを作るなど実行に移すことも出来た。
- ・第三者評価をする事で園全体の事を職員全員で見直し、考える事ができて良かった。細かい所までは普段気づくことが出来ないの、こういった機会が大切だと思った。また、保護者の考えなども知ることができた事は良かった。自分の保育も見直していきたいと思う。
- ・評価項目に基づいてチェックすることで、見落としていた問題点や保護者の要望などについて気が付くことが出来た。また、自分の保育を客観的に見る事ができたことは大きな気づきとなりました。

●主任の感想

職員同士の話し合いの中で、いくつかの課題に気づき、自分たちで解決方法を見つける良い機会となった。また日々、子どもたちのために悩み模索している保育者は客観的な評価が得られたことで自分たちの行っている保育が認められたと感じられた。これは保育者にとってモチベーションの向上にもつながると思う。今後も関係機関と連携を大切にして、よりよい保育を行って行きたい。

●園長の感想

保育園が社会から求められている事、それに答えるためにはどのような組織体制や意識が必要なのかを学ばせてもらった。第三者評価の作業を進めていく中で、課題が明確になっていった。そのひとつひとつを職員全員で協力しながら改善していく時間が取れたことは大変良かったと思う。

今回の第三者評価の結果については、自分たちが行なっている「育児担当制」がいかに子どもの発達において有意義な保育方法であるかを確かめることが出来、自信が持てた。

地域の方たちのためになる情報やサービスを提供できるようにしていくという点は、開園してから抱えてきている課題である。徐々に改善していると感じてはいるが、更に対応していきたい。

今回の第三者評価は、課題を共有する大きな一歩、課題となった事項は、全職員で共有し、職員の協力の元に更なるサービスの充実につながっていけるようにしたい。

貴重な時間を割いて協力していただいた、保護者の皆様、NPO 法人「よこはま地域福祉研究センター」の担当者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

十日市場のぞみ保育園

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ Email : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
